

第28期 北海道産業教育審議会 第1回審議会

1 日 時 令和3年2月18日(木) 10:00~11:00

2 場 所 北海道第2水産ビル 3階 3S会議室

3 出席者

(1) 委員 14名

岡部会長、明田川副会長、伊藤委員、木村委員、笹川委員、三瓶委員、竹澤委員、
武田委員、田崎委員、西平委員、西村委員、廣瀬委員、福井委員、渡辺委員

(2) 教育庁 11名

小玉教育長、山本指導担当局長

(事務局)

唐川高校教育課長、高田課長補佐、長谷川キャリア教育指導係長、大友主査、
香取主査、藤田主任指導主事、峯田指導主事、岩館指導主事、楠主任

4 会議次第

(1) 開会

(2) 会長及び副会長の選出

(3) 諮問

(4) 議事

ア 審議の進め方について

イ 専門高校実態調査(案)について

ウ その他

(5) 閉会

5 議事録

(1) 開会

【事務局(高田課長補佐)】

ただいまから、第28期北海道産業教育審議会第1回審議会を開会させていただきます。

はじめに、「第1回審議会要項」2頁の名簿に掲載のとおり、委員14名のところ、本日は全ての委員の皆様にご出席いただいておりますので、別紙1「関係法令等」3頁の北海道産業教育審議会規則第3条の2の規定により、本審議会が成立していることを御報告させていただきます。

それでは開会に当たりまして、北海道教育委員会教育長 小玉俊宏から、御挨拶を申し上げます。

【小玉教育長】

北海道産業教育審議会の開会に当たり、一言、御挨拶申し上げます。

皆様方におかれましては、日頃から本道教育の推進に御理解、御支援をいただいておりますこと、また、本日は何かとお忙しい中お集まりいただき、厚く御礼申し上げます。

この審議会は、昭和26年に公布されました産業教育振興法に基づき、北海道教育委員会に設置し、これまで約70年間に渡って、本道の産業教育の充実に向け審議を重ねてきていただきました。

本日は、その第28期に当たる審議会の第1回目の会議となります。

皆様におかれましては、これから2年間に渡り、委員をお務めいただくこととなりますので、御多忙とは存じますが、御協力をよろしくお願いいたします。

さて、新型コロナウイルス感染症による甚大な影響が、健康や生活、社会、経済のみならず、私たちの行動や意識、価値観にも波及し、世界中の社会経済、秩序が大きく揺さぶられております。

他方、コロナ禍がもたらす逆境や制約、不透明性の中で、GIGAスクール構想が前倒しされ、オンライン学習、テレワークも一挙に拡大したほか、Society5.0のキーテクノロジーとされますAIやビッグデータ、RPAなど先端技術の活用が加速しております。

こうした潮流の中で、逞しく生き抜くためには、これまでの画一、万能な正解や与えられた設計図に依存するのではなく、主体的に考え、文理の発想を融合し、多様な立場の方々と協働しながら、最善の納得解を生み出すプロセスが重要となります。

本道における産業教育におきましても、高度・専門的かつ学際的な視野と知識・技術を身に付け、俯瞰的、未来志向で社会的な問題を発見し、問題解決意欲と行動力を醸成することが求められてくるものと考えております。

今後、道教委といたしましても、地域や産業界との連携を強め、実践的な学習活動をより一層充実させ、本道の未来を担う人づくりに力を尽くしてまいります。

今期の委員の皆様には、「新時代に対応した資質・能力を育成する本道産業教育の在り方について」をテーマに御審議をお願いすることとしておりますので、それぞれのお立場で、あるいは異なる分野で関心や知見を共有いただきながら、忌憚のない御意見、御提言を賜りますようお願い申し上げます。

終わりになりますが、皆様方のますますの御健勝と御活躍を御祈念申し上げ、開会に当たっての御挨拶といたします。よろしく願いいたします。

【事務局（高田課長補佐）】

次に、委員の皆様のお紹介についてですが、要項2頁の名簿をもって代えさせていただきます。

また、本日の運営者については、同じく要項の12頁に記載しておりますので、併せて御確認をお願いいたします。

(2) 会長及び副会長の選出

【事務局（高田課長補佐）】

続きまして、本審議会の会長並びに副会長の選出となります。

会長、副会長の選出についてでございますが、別紙1「関係法令等」3頁、審議会規則第2条の2によりまして、委員の皆様の互選となります。

会長、副会長の選出に係る議事進行をこのまま事務局の私が行いたいと思っておりますので、御理解をよろしくお願いいたします。

それでは、会長、副会長の選出ですが、委員の皆様から自薦、他薦の御意見があれば、お伺いしたいと思います。いかがでしょうか。

（推薦の意見なし）

特にお声が上がらないようですので、事務局から案を提案させていただきたいのですが、よろしいでしょうか。

（了承の声）

それでは、事務局から提案をお願いします。

【事務局（唐川課長）】

それでは、事務局案を提示したいと思います。

事務局といたしましては、会長には、小樽商科大学の岡部委員にお願いしたいと考えております。

また、副会長には、北海道武蔵女子短期大学の明田川委員にお願いしたいと考えております。

以上、御提案申し上げます。よろしくお願いいたします。

【事務局（高田課長補佐）】

ただいまの事務局の提案につきまして、皆様、御異議はございませんでしょうか。

（賛同の声）

それでは、会長を岡部委員に、副会長を明田川委員に決定させていただきます。

会長に選出されました岡部委員と副会長に選出されました明田川委員におかれましては、恐縮ですが席の移動をお願いいたします。

（席の移動）

それでは、会長に選出されました岡部会長から就任に当たって、一言御挨拶をいただきたいと思っておりますので、お願いいたします。

【岡部会長】

この度、前27期に引き続き、第28期北海道産業教育審議会の会長をお引き受けすることになりました岡部でございます。

2年間の任期におきまして、委員の皆様の御協力をいただきながら、本審議会の円滑な運営に努めてまいりたいと考えております。

委員の皆様には、本道の高等学校における産業教育の充実・発展のために、それぞれのお立場や御経験から、示唆に富む御意見を賜りますようお願い申し上げ、会長就任に当たっての挨拶とさせていただきます。

どうぞよろしくお願いいたします。

(3) 諮問

【事務局（高田課長補佐）】

ありがとうございました。

それでは、議事に入ります前に、北海道教育委員会から本審議会に諮問をさせていただきます。

【小玉教育長】

諮問事項「新時代に対応した資質・能力を育成する本道産業教育の在り方について」でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

【事務局（高田課長補佐）】

続きまして、諮問の理由につきまして、御説明をさせていただきます。

【事務局（唐川課長）】

それでは、諮問理由について、御説明いたします。別紙2を御覧ください。

現在、我が国におきましては、人口減少や少子高齢化による深刻な人手不足や、第4次産業革命とも言われておりますAIやIoTといった技術の急速な発展に伴い、必

要とされる専門的な知識や技術の高度化への対応などが、一層大きな課題となっております。

このような中、平成30年3月に告示された高等学校学習指導要領では、「生徒が問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう過程を重視した学習の充実を図ること。」と明記されており、教科・科目等で得た知識や技術を関連付けながら課題解決に取り組むなど、学校教育全体を通じて探究的な教育を推進することが求められております。

本道の産業教育におきましては、これまで、各教科の指導を通して関連する職業に従事する上で必要な資質・能力を育み、社会や産業を支える人材を輩出してきたところですが、今後、テクノロジーが加速的に進展する新たな時代にあつて、地域の持続的な成長を支える最先端の職業人育成を担っていくためには、地域の産官学の関係者が一体となり、将来の地域産業界の在り方を検討する中で専門高校での人材育成の方策を整理し、それに基づく教育課程の開発・実践を行うことが必要となります。

以上のことから、第28期の審議会につきましては、新時代に対応した資質・能力を育成する本道産業教育の在り方に関して、御審議いただく予定になっております。

なお、具体的には、一つ目として「探究的な学びを通して地域創生に貢献できる人材育成に資する産業教育」、二つ目として「地域産業界と高等学校が一体となって社会に開かれた教育課程を推進する産業教育」という2つの観点から検討をお願いすることとしております。以上でございます。

【事務局（高田課長補佐）】

それでは、諮問を受けまして、岡部会長から一言お願いいたします。

【岡部会長】

ただいま、北海道教育委員会から、「新時代に対応した資質・能力を育成する本道産業教育の在り方について」の諮問をいただきました。

諮問の趣旨を尊重して、検討してまいりたいと存じます。

審議の進め方につきましては、この後の議事において、説明があると思いますが、分科会形式で審議を進め、出された意見は、事務局とも協力しながら、答申にまとめてまいりたいと考えております。

委員の皆様には、大変御苦勞をおかけいたしますが、御協力をお願い申し上げます。

【事務局（高田課長補佐）】

ありがとうございました。

教育長につきましては、この後、他の用務がございますので、ここで退席させていただきます。

（小玉教育長退席）

引き続き議事に入らせていただきたいと思います。

この先の進行につきましては、先程から御覧いただいております審議会規則により、岡部会長にお願いしたいと思います。岡部会長、よろしくお願いいたします。

(4) 議事

ア 審議の進め方について

【岡部会長】

改めまして、ただいま会長として進行を仰せつかりました、岡部でございます。円滑な審議について、皆様の御協力をお願いいたします。

それでは、お手元の要項の1頁をお開きください。本日の次第が掲載されております。

この次第に基づきまして、早速議事に移りたいと思います。

「審議の進め方」につきまして、事務局から説明をお願いいたします。

【事務局（唐川課長）】

それでは、事務局から、審議の進め方について、説明させていただきますが、今期から新たに委員になられた方もいらっしゃいますので、はじめに、本道における専門高校の概要について、簡単に短時間で説明させていただきます。

スライド及びお手元に配付させていただいたリーフレット「わたくしの進路」を併せて御覧ください。

表紙をめくっていただきますと、道内の公立高等学校の数が記載されておりますが、本道には公立高等学校が225校ございまして、これは道立高校のほか、市町村立の高校も含めた数字になります。道立高校のみの場合は、194校となります。なお、道内には、道立の中等教育学校が1校設置されております。

各高校に設置されている学科についてですが、通常は「普通科」、「専門学科」、「総合学科」の3つに分けられておりまして、中でも「専門学科」につきましては、さらに細分化されております。

「専門学科」は、産業教育に関わりの深い学科をまとめた「職業学科」とその他の理数科、外国語学科、体育科、工芸科といったものをまとめた総称で、「専門学科」と呼んでおります。

この中の「職業学科」とは、農業、工業、商業、水産、家庭、看護、福祉をまとめたものでございまして、これらの学科を有する学校を通称で「専門高校」と呼んでおります。

次に、職業学科のうち、特色のある教育活動を行っている学校について、ごく一部ですが、紹介したいと思います。

農業科では、札幌工業高校との協働研究に取り組んでいる岩見沢農業高校、地元企業と連携した酒造りに取り組んでいる倶知安農業高校、競走馬の生産を行っている静内農業高校などがあります。

工業科では、先ほどお話しした岩見沢農業高校と連携している札幌工業高校、地元建設業と連携した公園造成などに取り組んでいる北見工業高校などがあります。

商業科では、小中学校と連携した学習を行っている下川商業高校や、ビジネスを通じた資質・能力を育成する釧路商業高校などがあります。

水産科では、小中学校と連携して海洋教育に取り組んでいる小樽水産高校。

家庭科では、食に係る専門的な学習を行っている三笠市立の三笠高校があります。

看護科では、5年一貫教育で看護師を養成している美唄聖華高校。

福祉科では、道内唯一の福祉科を設置している置戸高校があります。

本審議会は、産業教育振興法に基づいた機関ですので、産業教育の振興を図ることを目的としていることから、専門高校の教育内容等について、この後、審議していただくこととなっております。

以上で専門高校の概要の説明を終わります。次に、審議内容の確認をしたいと思っております。

審議内容は、先ほどの諮問の内容にあったとおり、「新時代に対応した資質・能力を育成する本道産業教育の在り方について」となり、具体的な審議項目については、先ほど2つ挙げさせていただきました。

一つ目は、「探究的な学びを通して地域創生に貢献できる人材育成に資する産業教育」としており、将来の地域を担う人材を育成するために、専門高校における探究的な学習活動を如何にあるべきかといった視点での審議をお願いしたいと思っております。

二つ目は、「地域産業界と高等学校が一体となって社会に開かれた教育課程を推進する産業教育」としており、今後、地域の産学官の関係者が、地域の専門高校ではどのような人材の育成が必要なのかを整理し、その実現に向けて教育課程を開発していくためには、どのように進めるとよいか、といった観点から審議をお願いすることになります。

また、今期は道教委からの諮問を受けた上での審議となるため、審議のまとめを答申として、道教委に提出していただくこととなりますので、併せてよろしく願いいたします。

次に、審議会の開催日程についてでございますが、別紙3を御覧ください。

審議会を2年間に3回、ワーキングチーム代表者会議を2回、ワーキングチーム会議を2回程度、開催を予定しております。

令和4年11月頃には、答申を道教委に手交していただくようお願いいたします。

なお、次回の審議会は、一年後の令和4年2月に開催を予定しており、来年度に開催予定のワーキングチーム会議や学校視察を踏まえ、答申内容及び答申項目等について、具体的に検討していただくこととしております。

最後に、ただいま申し上げたワーキングチームについて、御提案させていただきます。別紙4を御覧ください。

本審議会におきましては、限られた時間の中で審議内容を焦点化し、審議を円滑に行うため、分科会としてワーキングチームを組織したいと考えています。

具体的に申し上げますと、委員の皆様14名のうち、岡部会長、明田川副会長以外の12名の方が3つのワーキングチームに分かれ、焦点化したテーマについて、深く掘り下げて協議をしていただきたいと思いますと考えています。

岡部会長、明田川副会長には、その全ての分科会に加わっていただきたいと考えており、ワーキングチームには、取りまとめなどを行っていただく代表者を選出することとして、ワーキングチーム代表者として、各分科会の意見等の取りまとめや答申素案を作成し、審議会への報告を行っていただきたいと思いますと考えています。

また、ワーキングチームについては、審議テーマに関わりましては、1点目が「専門高校での探究的な学びについて」、2点目が「社会に開かれた教育課程を推進する高校の取組について」、3点目が「社会に開かれた教育課程を推進する産業界の関わりについて」といったテーマで、3つのワーキングチームを設置したいと考えております。

なお、各ワーキングチームの構成員及び代表者については、岡部会長に一任していただき、後日、事務局から通知させていただきたいと考えております。

以上、審議の進め方について、御説明及び御提案申し上げます。御審議のほど、よろしくお願いいたします。

【岡部会長】

ただいま、事務局から審議の進め方について、説明及び提案がありましたが、何

か御質問や御意見などはありませんでしょうか。

それでは、私から事務局に確認ですが、ワーキングチームの審議テーマにも関わりますが、教育の関係者の中では「探究的な学び」であるとか、「社会に開かれた教育課程」という用語はよく耳にするわけなのですが、初めて聞かれた方はもしかするとピンとこないかもしれないので、これらの共通認識、あるいは事前に確認整理しておく必要がないのでしょうか。

それについて、何か方針等はございますでしょうか。

【事務局（唐川課長）】

まず、1点目の探究的な学びについて、若干触れさせていただきます。

探究的な学びについては、参考資料として載せておりますが、高等学校では、総合的な学習の時間という言葉をお聞きになった方はいるかと思えます。

小中学校で総合的な学習の時間、高校でも総合的な学習の時間として、教科等横断的な学びを行っているのですが、令和4年度の新学習指導要領から、高等学校では、総合的な探究の時間となり、もう少し主体的に色々な物事に対し、自分で調べ、まとめて発表していくというような教育活動を重視することなど内容が改定され、学習内容についても、その様なことを重視するという形で進められております。

特に探究という中身でどの様な学びを行うのかといいますと、これまでの知識、技能だけではなく、それらを活用して身近な課題を設定し、その課題に対してどうしたら解決できるのだろうかという仮説を立て、その仮説に基づいて様々な情報を調べたり、あるいは先行研究などを確認し、そして、生徒それぞれが自らその解決の方策というものを検証し、まとめて報告するというような探究学習のサイクルというものが、文部科学省から示されております。

このサイクルに従って探究活動を行った後、さらに発表、まとめを行い、さらに課題を生徒自身が見付けることができ、再度、それを深めていくという内容で、探究活動を継続していくといった探究サイクルという形で、自ら学びというものを深めていくということが、これからは単に探究的な学びの時間だけではなく、各教科等でも実施することで進められておりますので、これまでの教員から一方的に教わるといった授業だけではなく、自ら色々なことを考える、そしてまとめるといった、その様な学習へ移行していくことが、この諮問の理由の中で言われている探究的な学びということで押さえいただければと思います。

それから、2点目の社会に開かれた教育課程につきましては、これも新学習指導要領で使われている言葉なのですが、学校内だけで生徒を育てるということではなく、よりよい学びを通じて、よりよい人間をつくるということについては、社会全体で取り組んでいかなければならないということで、これまでも学校と社会、あるいは地域との連携は行っていましたけれども、もっとしっかりと、どの様な生徒を育てるのかというような視点も共有しながら、学校とそれを取り巻く社会が一体となって子供を育てるといった視点が必要であると学習指導要領で示されております。

この専門高校においては、これまでも産業界と一緒に進めてきた部分がありますが、改めて、どの様な子供たちを育てるのかという視点を共有した上で進めていく必要があるといった意味で、社会に開かれた教育課程と、この中に挙げさせていただいたということで、御理解いただければと思います。

【岡部会長】

重要な部分を整理していただきありがとうございます。
その他、何か御質問、御意見等ございますでしょうか。

【竹澤委員】

北海道科学大学の竹澤です。今回から出席させていただきます。どうぞよろしく
お願いいたします。

今の説明の二つ目の社会に開かれた教育課程についてですが、この歴史ある北海道産業教育審議会の他に、教育委員会にこういった社会から意見を収集する委員会や機関があるのでしょうか。

【事務局（長谷川係長）】

北海道産業教育審議会以外に、この様な産業教育について審議する機関はございません。ここが唯一となります。

また、これからの審議に当たり、今学校でどの様な取組が行われてるのかといった資料が必要と考えており、この後、御審議いただきますが、今回の審議内容である探究的な学び、社会に開かれた教育課程、産業界との連携といったことについて、各専門高校にアンケート調査を行い、事務局で取りまとめ、資料として提示したいと考えております。

【竹澤委員】

ありがとうございます。かなり責任のある会であると理解いたしました。

【岡部会長】

今の竹澤委員の御質問と事務局からの御回答は非常に重要な部分で、社会に開かれた教育課程という言葉が出てくるのですけれども、それが具体的に審議の対象に上りやすいのは、実はこの職業教育であったり、産業教育であったりという側面が確かにあるかもしれないということです。

それと探究的な学習についても、いわゆる産業教育での探究的な学びというのは何なのかというところが、実は意外と議論が深められない側面がございます。

そこがまた本審議会の重要性だと改めて、考えた次第です。

他にございませんでしょうか。

【福井委員】

北海道商工会議所連合会の福井と申します。

このテーマのうち2点、探究的な学びと社会に開かれた教育課程の部分についてですが、探究的な学びは、私は2年前に校長先生方に講演をさせていただいたことがありまして、その時に社会あるいは会社にとってこういった人材が必要なのかという話をしてほしいということで、お話をさせていただきました。

やはり学校までは答えのあるものを与えられて、学んだ知識を活用して解いていくということだと思うのですが、今、特にこの様な状況に社会がなった中で、これが正しいという唯一の答えが、多分もう無いのかもしれないけれども、それをどう探していくかという過程はすごく大事ですし、先ほど事務局から御説明いただいたように、仮定をして、自分たちで考えていく、探していくという姿勢はすごく大事であると思います。

ただ、御説明いただいた中でちょっと引っかかった点が、課題をまとめて表現するところで終わっているけれども、本来、社会に出た場合は、これを実践して、トライアンドエラーでエラーがあった場合は修正して、さらに進んでいくということが、PDCAサイクルでいうと最も大事な部分であると思うので、課題をまとめていくところはもちろん大事なのですが、その先があるというところをもう少し意識して、今回の審議会に取り組んでいければと、御説明を伺って思いました。

もう一つ、社会に開かれた教育課程のところは、前にもお話ししていたと思いますが、学校は地域の中で一つのインフラであることは間違いなくと思います。

また、それが学校内だけで終わっていたか、終わっていなかったかの差でしかないのですが、そこをどう繋いでいくのかというのは、この審議会の意義として、立ち位置として非常に重要な部分かと思っております。社会に開かれたというと、何か社会に開かれていないようなイメージをもたれる可能性もあるので、もっと何かお互いで地域を支えているというイメージで取り組んだ方が良いのではないかと思いますので、言葉の表現だけの問題ですが、意識としては、学校は地域の一部、我々産業界もその一部ということで、この諮問を是非受けたいと考えております。以上です。

【岡部会長】

ありがとうございます。福井委員から大変重要な指摘があったと思います。

このまとめの表現でとどまっているということは非常に重要な部分で、しかもこれはおそらく、今の学習指導要領が出る前の答申でも、実はまとめの表現にすら至っていないという問題が指摘されていたところなのです。

その部分に、さらに実社会においては、実践という段階があるというのは、この審議会においては、まさに独自の視点であり、かつ重要な役割だと思えます。

また、社会に開かれた教育課程というのは、考えようによっては、社会に閉ざされた教育課程があるのかということはおかしな話です。そういうことがあるはずがないのです。ただ共有がされていなかったという部分があるので、これもまたこの中で共有しつつ議論を進めていくべきかなと考えます。

その他にございますでしょうか。

【伊藤委員】

クリプトン・フューチャー・メディアの伊藤と申します。よろしくお願ひいたします。

今回の諮問事項として、「新しい時代に対応した資質・能力を育成する本道の産業教育の在り方について」ということで、新時代ということがタイトルに書いてあるのですが、今の状況はコロナということで、皆さんマスクをして、そういう生活も当たり前になっていて、教育現場に関しても、今年度の春から高校含めて、テレワークといいますが、テレ授業といいますが、教室で集まらないという状況が結構ありました。

これに対応していくことによって、新時代といいますが、これに即した教育の制度的なことが、構築できると思ってまして、そういう意味では北海道は広いですから、その場所において授業を受けるというだけではなくて、遠隔の授業ということもやはり考えていくべきなのかなと思うのです。

専門学科も結構多様で、置戸高校に福祉科が1校だけあって、多分、この地域に

住んでいる方で福祉科を受ける生徒はたくさんいると思うのですが、置戸に通える人は限られてきますし、そこを専門高校同士でカリキュラムを遠隔により融通し合うということも、一つやってみるべきとも思います。

いずれにしても、遠隔の授業とそれによって見えてくる教育の在り方、札幌の有識者や企業の方が、他の学校を遠隔により授業を見てみることもできているので、何かそういうことも同時に考えていくのもよいのかなと思いました。

その際にパソコンとかが結構いると思っていて、しかし、それを全世帯が買うと結構お金が掛かってしまうが、企業とかは一代、二世前前のパソコンとかが結構余っていたりするので、その様な物を集めて活用するとか、やりようによっては色々アイデアがあると思いますが、そういうことを議論するのもよいかと思いました。以上です。

【岡部会長】

ありがとうございます。これは避けて通れない話です。

ハードの部分、1人1台のパソコンやタブレットという問題もありますが、実は回線が大きな問題を抱えているということがありますので、そういうところも含めて、どうしても議論の範疇に入ってくるのかなと思っております。

あと少しお話が出たのですけれども、この別紙3の日程の中に、学校視察が含まれております。

これについては、審議会の内容に関して、専門高校の現状がどの様になっているのかを実際に見ていただくという理解でよろしいでしょうか。

【事務局（唐川課長）】

会長がおっしゃったとおり、実際の学校の現場を見ていただくと、審議する上でも大変参考になるかと思えます。

また、課題がありましたら、その課題に即して、この様な学校を私たちで選定しながら、視察をしていただければと考えております。

【岡部会長】

ありがとうございます。その他はよろしいでしょうか。

（意見等なし）

それでは、追加の御質問、御意見等がないようでしたら、「審議の進め方について」、委員の皆様から了解が得られたということを確認させていただくことにします。よろしいでしょうか。

（反対意見等なし）

ありがとうございます。

イ 専門高校実態調査(案)について

【岡部会長】

それでは続きまして、「探究的な学習活動及び地域産業界との連携などに関する専門高校実態調査(案)」について、事務局から提案をお願いいたします。

【事務局（唐川課長）】

ただいまの御質問で若干この内容に触れた回答がありましたけれども、探究的な学習活動及び地域産業界との連携などに関する実態調査として、まずは実態を把握

した上で審議をしていただくことが大切であろうということで、そういった調査について、御提案したいと思っております。お手元の資料、別紙5を御覧ください。

先ほどの審議内容で確認させていただいたところですが、委員の皆様、それぞれのお立場から、たくさんの忌憚のない御意見、御提言を賜りますよう、審議内容に関して、専門高校の現状や実態をしっかりと把握する必要があると考えております。

そこで、この後、調査や学校視察を実施したいと考えておりますが、この調査につきましては、別紙4のとおり、「探究的な学習活動及び地域産業界との連携などに関する専門高校実態調査」として、委員の皆様からの了解が得られましたら、道立の専門高校計57校に対し、早急に調査を実施し、4月下旬を目途に集計結果を委員の皆様へ送付して、情報を共有していきたいと考えております。

御審議のほど、よろしくお願いたします。

なお、学校視察につきましては、先ほど若干御説明いたしました、今般の感染症の状況を見極めながら、来年度、札幌市内及び近郊の専門高校で、特に課題等に即した学校等を設定して実施していきたいと考えておりますので、御承知おきください。以上でございます。

【岡部会長】

ただいま、事務局から、専門高校への調査について提案がございました。

この点につきまして、何か御質問や御意見などはございますでしょうか。

それでは、まず1点ですが、実態調査の実施の仕方、方法は具体的にどの様な考え、方針でしょうか。

【事務局（長谷川係長）】

この調査については、事務局が中心となって、審議会から依頼があったということで、公立の道内の専門高校に調査をかけていきたいと思っております。

また、回収についても、事務局で取りまとめ、取りまとめたものを委員の皆様へ情報提供させていただきたいと考えております。

【岡部会長】

ありがとうございます。

その他、何か気になった点、御質問、御意見等がございましたら、お知らせいただきたいと思っております。

【福井委員】

2点あります。調査報告の中に課題という項目はあるのですが、課題だけではなく、例えば要望ではないが、こういうことをやってほしい、支援してほしい、手助けしてほしいということを吸い上げるところがもう少しあってもよいと思えました。

また、集計をいつぐらいにまでにされるか分かりませんが、この集計結果を我々にいつ頃フィードバックしていただけるのか。それが次の会議などに反映できるのかどうか、あるいは次の審議に使えるのかどうかが見えないので、スケジュール的なものも含めて御説明いただければと思います。

【事務局（唐川課長）】

質問項目の内容につきましては、ただいま御意見いただいたことも十分に踏まえて、再度精査していきたいと考えております。

スケジュール感ですが、先ほどの説明の中でも若干触れましたが、4月下旬を目途に集計結果を委員の皆様へ送付して、情報共有したいと考えております。

【福井委員】

情報共有するだけで審議会に諮ったりはしないのですか。議論をする場はないのですか。

【事務局（唐川課長）】

その実態等を踏まえ、それぞれのワーキングチーム等で検討していくということで、その中で出てきた意見を再度共有していくというような流れを考えております。

【岡部会長】

おそらくこれは現段階の見通しだと思うのですが、実際にこの調査をしてみて、これがどう使えるのか、どの様に咀嚼できるのかということ、まず6月の代表者会議で一度話し合っ、その上でワーキングチームで具体的にさらに深めていくというイメージで考えております。

その他にいかがでしょうか。

【渡辺委員】

北海道経済産業局の渡辺でございます。

別紙5の2番、「地域産業界と高等学校が一体となって推進する産業教育」の質問に連携のきっかけを聞かれているのですが、おそらく教員がどの様な企業や地域の産業と繋がりがああるか、それにより大きく変わってくるのだと思います。

教員が地元の産業界、企業とどの様な接点で繋がりを得たのか、どういった活動をしているかということ、少し聞いていただいて、そこに対して、考えること、フォローしていくことがあれば、検討できたらと思います。

それがやはり学校が生徒さんたちを導いていくきっかけとなってくれると思いますので、質問の中にそういったことを盛り込んでいただければと思いました。

【岡部会長】

ありがとうございます。

その点に関しては、おそらくどこまでできるか分からないけれども、学校視察もある種の意味をもってくるのかなと思います。ただし、これに関しては、感染症の状況次第ではあるのでしょうか。

その他、何かお気付きの点等はございますでしょうか。

【田崎委員】

ディードサポートの田崎と申します。よろしくお願いたします。

1番目の探究的な学習活動についての取組内容のところ、「複数ある場合は、代表的な取組を1つ選んで記載」ということなのですが、これは記載する文の量が非常に多いので、記載は1つということだと思っておりますけれども、高校によっては、さきやかな取組を1つだけ行っているところがあれば、プロジェクトを3つもやって強力に推進しているというところもあると思います。

そうすると、そういったものを吸い上げること、本当の状態を見ることが困難ではないか、漏れてしまうのではないかとということが懸念されますので、代表的なも

のを1つ記載して、別紙か何かで他に行っている状況についてお聞かせくださいとか、何かその様なものを入れていただけたらと思います。

【岡部会長】

ありがとうございます。非常に重要な点ではないかと思えます。

実は1つというのは難しい。いくつかのものが連携して繋がっているという場合もあるときに、受け取る側が全部繋がっていることの一部だけを切り取って記載してくるのか、全部繋がってるからその全体を記載してくるのかによって、実は色々なことを行っているのに、ここには記載されていないという事態が生じるのかもしれない。

それはこの後に議論するに当たって、もったいない話であります。

【事務局（唐川課長）】

貴重な御意見をありがとうございます。

代表的なものを1つとこちらには書いてますけれども、できるだけ学校が行っていることの参考資料等は、こちらでも収集したいと考えております。

実際に行われている資料というものを私たちにを見せていただく方が、こういう中身で書いてあるものよりもイメージが湧きやすいと思えますので、学校で取り組んでいる内容が分かるような参考の資料というものも、一緒に集めさせてもらいたいと思っております。

【岡部会長】

この一つ選んで記載というのは、各学校の取り組んでいることの一例、一側面と理解してもよろしいのでしょうか。

【事務局（唐川課長）】

そうです。特に具体的な取組ということで、それに付随するものであったり、参考となる補足資料というものを入れてもらえれば、こちらでも全体像を掴みやすいかなと思っております。

【岡部会長】

分かりました。その他、いかがでしょうか。

（発言なし）

おそらく今いただいた御意見等々がある中で、この調査案について、この後、若干の加筆・修正が必要になってくると思えます。

その上で、加筆・修正したものを委員の皆様にとどの様な形で共有するのでしょうか。

【事務局（長谷川係長）】

専門高校に最終的に送付する前に、事務局で修正したものを委員の皆様へ修正案として送付させていただき、御確認いただいた上で、学校に送付していきたいと考えております。

また、修正案を再度もう少しここをとることが出てきましたら、その部分を再修正し、了解を得たものを専門高校に調査をかけることで進んでいきたいと思えます。

【岡部会長】

ありがとうございます。

最終的な期限というか、終わりを決めていく必要が出てくると思いますので、その詳細につきましても、別途お知らせいただければと思います。

この後、おそらく年度を超えてしまいますが、ワーキングチームの代表者会議及びワーキングチームの会議において、別紙で示されている調査の結果及び可能であれば学校視察をし、現状を把握した上で、こういった話ができるのかが焦点となっていきますので、是非、皆様には追加で御意見がございましたら、忌憚ない御意見をいただければと考えております。非常に重要な資料になってくると思います。

追加で御質問等がないようでしたら、修正案を改めて提示していただくということで進めさせていただきます。

大筋においては、実施の仕方あるいは大枠について、御了解が得られたということでよろしいでしょうか。

(異議の声なし)

ありがとうございます。

ウ その他

【岡部会長】

事務局が用意した議案は以上なのですが、委員の皆様からその他として、何か御意見、御要望はございませんでしょうか。

(発言なし)

それでは、特にないようですので、これで第1回審議会の議事については終了いたします。

進行を事務局にお返しいたします。

【事務局（高田課長補佐）】

大変お疲れ様でした。事務局から2点ほど連絡させていただきます。

1点目は、本日協議いただきました専門高校実態調査については、今一度整理をさせていただきますが、今般いただいた御意見等を踏まえ修正をさせていただきます、早急に対応をして、委員の皆様にも再案として提示をさせていただきます、その中でまた御意見等を集約しながら修正をしていきます。

今後の日程を踏まえすと、4月下旬頃から調査をまとめる必要があるかと思っておりますので、なんとか3月上旬には各学校に調査を依頼し、集約するというスケジュール感で進めていければと思っておりますので、御協力をお願いしたいと思います。

2点目は、本日の議事録でございますが、2週間後の3月5日（金）頃を目途に、メール等を活用して皆様にお送りしたいと考えております。

委員の皆様には、御多用のところとは存じますが、翌週の3月12日（金）を目処に、修正等がございましたら、こちらに忌憚のない御意見をいただきたいと考えております。

その様なスケジュールで進めさせていただきます、第1回審議会の議事録を確定させていきたいと考えておりますので、御理解と御協力をお願いしたいと思います。

ここまで2点ほど連絡させていただきましたが、御質問等はございますでしょうか。

(質問等なし)

(5)閉会

【事務局（高田課長補佐）】

それでは、大変お疲れ様でした。これから閉会に入りたいと思います。
閉会に当たりまして、岡部会長から一言よろしく願いいたします。

【岡部会長】

閉会に当たりまして、一言御挨拶申し上げます。

委員の皆様におかれましては、何かと御多用のところ、お集まりいただき、熱心な御審議をいただきましたこと、心から御礼申し上げます。

第28期である今期は、先ほど小玉教育長からいただきました諮問に基づきまして、社会の変化に対応することができる資質・能力を身に付けた子どもたちの育成を目指し、専門高校における探究的な学びや社会に開かれた教育課程について審議してまいります。

委員の皆様には、様々な見地からの御意見をいただきながら、審議会として十分な議論を重ね、よりよい答申となるよう努めてまいりたいと考えておりますので、改めまして、お力添えを賜りますようよろしく願いいたします。

本日はありがとうございました。

【事務局（高田課長補佐）】

岡部会長、ありがとうございました。

続きまして、北海道教育庁学校教育局指導担当局長 山本純史から、御挨拶申し上げます。

【山本指導担当局長】

本日は大変貴重な時間をいただき、この審議会に参加を賜り誠にありがとうございます。

第1回目ということで、顔合わせ的な雰囲気かと思いましたが、大変貴重で建設的で深い御意見を初回から賜りました。改めて御礼を申し上げたいと思います。

先ほど伊藤委員の御意見にありました諮問事項である新時代に対応したということで、5Gの通信サービスがスタートいたしまして、今後、通信インフラの整備に伴って、北海道を含む全国にこのサービスが拡大されていくと思います。

ところが、企業は6Gの開発を2030年代の実用化に向けて入っているといわれております。

それから、もう一つ重要な量子コンピュータを使った量子技術というもの。これも一部実用化されてるようですが、今世界各国で開発が進められていて、これも2030年代には実用化されるといわれております。

こうしたテクノロジー、情報通信分野は劇的に変わるといわれております。

今の高校生を含めた子どもたちは、そうしたテクノロジーが一般化した社会を生きていくことになりまして、こうしたテクノロジーが単に私たちのQOLを高めるといっただけであれば、それを享受していればいいのですけれども、問題はあらゆる産業、あらゆる職業にこうしたICTを含むテクノロジーが全部取り入れられてくる。そうした時代を子どもたちは生きていくということになります。

それからさらに問題を複雑にしているのが、今回の新型コロナのようなエマージング感染症が今後も定期的に発生するであろうと言う専門家もおられます。

ですから、こうした時代、新たな新時代を生きていくためには、今日の御意見に

もありました実践的な知識、議論というものが、大変重要になります。

そういう意味においては、専門高校において産業教育を充実させていくということは、専門高校のみならず、全ての高校に還元という形で展開していけるものだというふうに私は考えております。

こうした教育を推進するためには、教育の分野だけではなく、産業界、大学、関係機関などの御支援、御協力が不可欠であります。

ですから、今後もこの産業教育審議会の皆様のお力を頂戴して、色々な議論を深めていっていただきたいと思っております。

コロナの関係で依然として終息時期が見通せないために、感染状況によっては審議会が予定どおり開催できないということもあるかもしれませんが、この第28期の審議会において、本道の産業教育の方向性を示す議論が展開されますよう、私ども事務局一同、しっかりとサポートをさせていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

本日は誠にありがとうございました。

【事務局（高田補佐）】

以上をもちまして、第28期北海道産業教育審議会第1回審議会を終了させていただきます。本日は大変ありがとうございました。

(以 上)